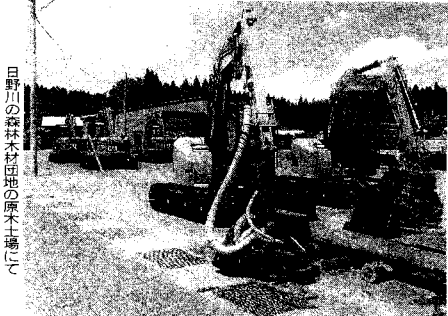


木を取り巻く新たな事業に動き出す

日南町地域

日南町及び日野川流域は林野率が90%を占める林業地域。日南町の人工造林面積は1万8000㎡(流域4万6000㎡)、創立総会を開催した(設立認可は10月1日)。

年間生長量16万立方メートル(同38万立方メートル)、蓄積量500万立方メートル(同1200万立方メートル)とされる。しかし、日南町木材生産組合(現・日南町木材生産事業協同組合)が設立した2007年ごろの針葉樹年間生産量は日南町3万2000立方メートル(同5万1000立方メートル)に過ぎなかった。



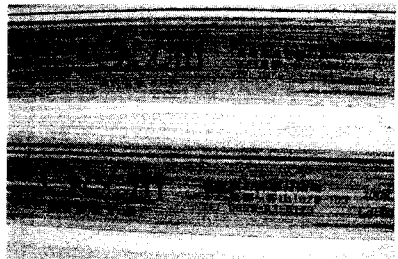
日野の森林(周囲の腐木土壌)

このため、日南町では丸太生産量の増加など、基幹産業である林業新業が進められている。さらに、広い意味で町づくりの推進・環境の保全活動

事業計画では、「森林・林業、木材産業の活性化を通じたまちづくり」をキヤッチフレーズとして、▽林業後継者の新規雇用に対して労災・雇用保険への助成▽資格研修等への助成。いずれも3年間、(45歳未満)▽拡大造林・再造林への助成▽新工元ルギー研究・開発に対する支援など、各事業に取組んでいく。「NPO

フォレストアカデミージャパン創設

自分たちで住みやすい地域を造る



山から皆伐・間伐によって発生する林地残材の搬出、チップ化等による燃料エネルギーへと転換する実証実験に着手する。杉LVL製造のオロチ子では、木質ボイラーで工場から出る木屑などを燃やしてできたエネルギーを工場内で活用しているが、今後は林地残材にも取り組んでいく。搬出コストなどの実証実験とエネルギー利用の可能性についての検証を行っている。

環境モデル地域、自分で住みやすい地域を造るというもの。この事業に基づいて、様々な地域の仕事をやる。理念が同じな方向性が統一されて、具体的に取組むことができる。旧日南町林業協会は、林業につい

てまとめていたが、フォレストアカデミージャパンでは製材や建築・建設関係者等も含む、名称など、各事業に取組んでいく。日南町森林組合代表理事(組合長)と話し、

また、3月に日南町森林組合はFSC森林認証を取得した。「FSCは世界基準であり、国産材もグローバル化の時代を迎えて、将来の取組を考えた」(入澤組合長)。人工林は全体の9%に当たる1607.65立方メートル(12・14年)を計画している。近年の木材価格の下落、高齢化による労働不

出材増の体制整備
地元材の集散基地である「日野川の森林(もろこし)木材団地」のオロチ子(原木市場)や山陰丸和林業生山事業所(チップ工場)に出材している日南町木材生産事業協同組合では、緑の産業再

約2万2000立方メートル、原木出材量は杉LVL工場向け約2万立方メートル、約7万5000立方メートル。今回の高性能林業機械を組合企業に貸し出し、生産増を図り、2・3年後の計画数量は約10万立方メートル(杉LVL工場向け5万立方メートル)とされている。4・5年先にはチップやバイオマス向けの林地残材を含めて20万立方メートルを目標に置いている。

また、天然林は原生的な林相ではなく、薪炭林が大半を占め、ほとんどの森林に一度は手が入っている状況。広葉樹の保存とともに一部、住民との触れ合いの場を整備する予定。

さらに2次開発では今年度から工務店と連携し、県産材のモラルハウス「杉材まるごと鳥取の暮らし」を検討する。床、壁、家具や照明、コップに至るまで県産杉材を使用する。モラルハウスの展示、アンケートの実施など、検証を行い、2011年度に全国販売を計画している。11年度の3次開発では、杉の曲木家具を開発し、製品化を図る。

「日本の製造業は低迷し、一企業で新たな事業展開は難しくなっている。グループを通して企業の活性化を目指す。個々の高い技術力を生かし、製作から販売までグループで取り組むことが必要だ。トータルで鳥取の木を使い、モラル住宅では県外からも見学に来てもらい、鳥取の工大が県外でも家を建てるような活動を目標に置いている」(白岡彰プロマネージャー)。

「首都圏で暮らす30・40代が対象になる。6月には団塊世代が対象の「とつとの美と技」、10月の「鳥の木の葉」は子供向けを対象に商品開発を行っている。

森林づくりで町づくり

森林・林業・木材産業の活性化を通じた町づくり!!

NPO法人 フォレストアカデミージャパン (10月1日設立認証)

理事長 矢田 治美

鳥取県日野郡日南町下宿見1843-1
TEL 0859-83-0211 FAX 0859-83-0212